
とある世界のとある物語

ミンチ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある世界のとある物語

【コード】

N8771D

【作者名】

ミンチ

【あらすじ】

まあみてのとおりです。何書けばいいかわからないんで（汗

ここはどこにでもあるようなただの草原、ここらへんは魔物がよく現れるので、普段は誰も寄り付きません。しかし今日はこの場所でないにやら騒がしい人達がいいます。

「うわああ！ 魔物だ魔物！ 助けてえ！」

この悲鳴をあげて腰を抜かしている少年は、

名前 ユウジ

年齢 16

職業 ヘタレ

備考 なにかと打たれ強い

とまあなんの役にもたないただの小物です。

2

「見ればわかるわよ！ ちゃっちやと倒せばいいんでしょ！ …ちよつとユウジ邪魔よ、なに？ 一緒に殺られたいの？」

この不機嫌そうな顔でとても恐い事を言っている女の子のは、

名前 レナ

年齢 17

職業 魔法使い

備考 DS

腰まである漆黒の長い髪をゆらつかせながら魔法で魔物を次々と倒していきます。もちろんヘタレのユウジ君もこみで。

「おいレナ、貴重な戦力を減らすな！」

レナを叱る白髪のこの少年は、

名前 タツト

年齢 18

職業 拳士

備考 クール

女の子にモテます。 カッコイイです。

「危ないじゃないか！？ どーして僕を攻撃するの！？ 僕たち仲間だよね？」

「敵よ」

「敵なの！？」

「もたもたするな、まだ依頼はクリアしてないぞ」

「そうね、こんなヤツほつといてさっさと行きましょ」

「ひどい…」

2人は半泣きのユウジを置いて草原を先に進みます。

個性の強い3人組、彼らは自分達の事を《退治屋》と呼びます。

退治屋とはその名の通り、依頼を受けて指定された魔物を退治し、そのかわりガツポリお金をいただくという1つの商売である。

「依頼の魔物がでるのはここらへんだな」

タツトは依頼書をみながら立ち止まる。

「うう… 帰りたいよ〜」

「おやおや、早くもユウジ君がビビりだしましたよ？」

「そんなに帰りたいたら帰ってもいいのよ？」

「ホント！？ じゃあ帰る！ すぐ帰る！」

帰れるとわかった瞬間、ユウジ君は目きらきらと輝かせ、元気になりました。

「魔物だらけの道を一人で帰れるならね」

「ガン！！！！」

うなだれてまた元気がなくなるユウジ君。

さすが、レナは本当にDSですね。

そーこーしているうちに、3人の前に目的の魔物が現れました。

人型のその魔物はなんとゆーかその…

「マッチョだ！？」

「マッチョね」

「マッチョだな」

ムキムチで黒くてテカテカしててピチピチの海パンをはいたそいつは、一言でいうとマツチヨでした。

マツチヨは自分の筋肉を小刻みにびくびくさせながら3人に向かって歩いて行きます。

「くるぞー！」

タツトは身構えた。

「なかなか手強そうね」

レナは杖を構えた。

「ヒイイイ！」

ユウジはヘタレた。

ユウジ君が腰を抜かしている間に、レナは呪文を唱えます。

「風の精よ、その大いなる力もちいて我に害をなすイモムシ野郎に制裁をくだせ！」

言い終わると同時に、無数の風の刃がマツチヨとユウジを襲います。

< シュババババ >

「またカアアア!？」

【マツチヨを倒した】

【ユウジを倒した】

「どっ… して…」

ボロボロになったユウジ君はイモムシのような動きでレナに近づいて行きます。

「風の精にも敵だと思われたのね 手加減してもらってるんだから感謝しなさいよ」

「嬉しそうだね… てゆうか手加減とかの前に風の精は敵味方の区別もできないの!?!」

< シュババババア >

風の刃がユウジ君の体を切り裂きます。

「ギヤアアア!?!?! ごめんなさい!?!?! ごめんなさい!?!?!」

「ちゃんと風の精にあやまりなさい!」

「もうあやまってますけど!?!」

「お前らいい加減にしろ! 魔物に囲まれたぞ」

タツトは構えたまま、言い合う2人を叱ります。

「ほんとだ!?!」

「いつのまに…」

「「またカアアア!?!」のところからだ」

「「早く言えよ!?!」」

ユウジ君とレナのダブルツッコミを受けても、タツトはクールに受け流します。

「どーするのこれ!?! 僕たち死んじゃうの!?!」

かわいそうに、ユウジ君はほとんど泣いています。 かつこわるいですね。

「しかたないわね… 分身を作って時間をかせぐから、そのスキに逃げましょ」

「おお! レナ頭いいね!」

「うるさい」

<ペシ>

「いたい! え!?! なんでぶつの!?!」

「早くしろ!?!」

急かすタツト。

「わかってるわよ、《分身の術》！」

8体の分身が3人を囲むように現れます。

「魔法じゃないの!？」

「うるさい」

<ドス>

「グハッ」

ユウジ君はレナの攻撃で地に沈みます。

「うう… どーして… あれ? 待って!?! この分身全部僕だ!?
? うわ、なんか怖い。レナの分身がでてくるんじゃないの!?!」

「はあ、本当にうるさい」

「えええ!?!」

「もたもたするな、行くぞ」

その後、3人はなんやかんやして脱出し、なんとか助かりました
とや。

「あ、これユウジの分身だわ」

「なに！？　じゃあ本物は…」

「頑張れ僕の分身たち！　みんなで戦えば勝てるはずだ！　共に生き残ろう！　…ってあれ？　違う！　僕は敵じゃない！　味方だよ？　まって、やめて…　イヤアアアア！！！！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8771d/>

とある世界のとある物語

2010年11月5日07時38分発行